

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	68
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	評価 責任者	住民生活課長 淡路至尊
単位施策	2	応急体制の強化		

1 施策の概要

基本方針	大災害・有事の際、初動を迅速・的確に対応できるよう、情報伝達や避難、応援要請、医療救護などの応急体制を充実します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	災害時における避難訓練を通じて、情報伝達体制の確立を図っている。	災害における避難訓練時において、行政職員の登庁時間等の把握を行なうとともに、防災行政無線を使った情報伝達の訓練、避難会場での救急蘇生などを実施した。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	災害時における的確な初動体制を確保するための、迅速かつ正確な情報伝達による、情報の共有化を図ることが求められている。	いつ起こるか分からない災害に対する対応力、家庭における災害対策の備えなど住民周知に努める必要がまだまだある。特に若年層の避難訓練参加率が低調である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	防災訓練の年間実施回数					
	定義等	雄武町総合防災訓練の実施回数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					1回	
	実績値		1回	1回	1回	1回	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】地域ぐるみ防災推進事業	住民活動係	5,008	B	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	テロやミサイル攻撃、地震・津波などの自然災害等における情報伝達や避難体制の確立は、行政の使命である。
② 有効性	A	大災害やミサイル攻撃など緊急を要する国からの情報等は、EMネットや防災行政無線を通じて瞬時に町民に周知する体制となっており、有効である。
③ 効率性	A	国等の緊急情報は、防災行政無線等にて瞬時に伝達可能であり、効率的である。
④ 公平性	A	有事や大規模災害の情報伝達や応急体制の確立は、町民の生命・財産を守ることとなる。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、意見・要望等があれば検討する。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
防災行政無線野整備により、有事や大規模災害時における情報伝達は確立されたところである。また、ハザードマップの更新により本町で想定される津波浸水予想区域を掲載することで安全箇所を明確にした。	同 左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>
防災無線の活用により迅速な情報体制は確保されたものの、応急体制の確立には自治会組織や防災機関等の連携強化を図ることが必要となる。また、情報伝達の主要機器である防災行政無線の定期的な保守点検が必要である。	同 左	
＊今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		